

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	安心、安全、その人らしさを大切に」を基本として、一緒に生活して行こうという理念を、職員全員で確認し作りあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に、理念の唱和を行うと共に、職員会議で話し合った内容、利用者と朝の挨拶時に握手をすることで、コミュニケーションの円滑化と体調チェックに役立てる、などの取り組みを実践している。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会への加入はしておらず、リサイクル活動などの参加も今の所はなく、地域の商店街に買い物に行き交流する程度にとどまっている。		町内会への加入を検討しているところであり 併設施設の喫茶を利用して、地域住民とのコミュニケーションを図る等、今後の活動に期待したい。
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価を活かし、今年度は、職員の内部研修を充実させるように年間計画表を作成している。自己評価の取り組みについては、数か月前から管理者と職員全員で取り組んできている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の11月に運営会議を行い、今年は、2月、4月と行っている。助言頂いた内容については、日々の介護に活かし、検討事項については、次回の会議までに改善するように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
		市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営母体が協力している、市が開催する研修に参加しサービスの質の向上について話し合わせ、助言を得ている。		
4.理念を実践するための体制					
		家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	金銭については、預かりはしていない。病院受診の報告は、主に電話で行い書面では行っていない。2か月に一度発行される、「グループホームそらだより」には、日々の暮らし方や、行事予定の案内等が報告され、家族に送られている。		
		運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の助言により 家族に対して郵送によるアンケート調査を実施し、調査結果については、職員にきちんと報告されている。今年4月の花見の時に、家族会議を開き、今後も定期的に開催して、意見、要望等を表せる機会として、取り組む予定である。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、職員を固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心がけているが、やむを得ないときには、引き継ぎ期間を十分に取り、利用者との信頼関係を築く努力をしている。		
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職員会議の後に、事業所内勉強会をテーマを決めて行っている。また、外部研修についても、全ての職員が参加出来るように配慮されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営母体が地域の中で主催している「認知症介護について」の研修会に参加し、他の事業所の職員とのグループワークを行っているが、事業所同士協同の取り組みは、今のところ行われていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には、何度かホーム見学に来ていただき、お茶を飲みながら雰囲気に馴染んでいただくよう工夫されている。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人の意志を尊重しながら、料理、掃除など日々共に行い、季節の行事等についても、人生の先輩として経験を尊重し、教えていただくという気持ちで接し、感謝を言葉だけでなく態度で示すように努めている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者や家族から意向をつかがい、利用者を先生として料理教室を開く等、日々のかかわりの中で、言葉や表情などから意向を把握するように努めている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々の生活での気づきは、職員が個人録に記入し、本人や家族に思いや意見を聞き、反映させるようになっている。職員全員で、モニタリング、カンファレンスを行っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3ヶ月に1度、ケアプランの検討会は月に1回、職員全員が参加して行われ、利用者の状態に変化が生じた場合にも、見直しが行われている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力病院の心療内科医による、2週間に1度の往診や、緊急時には訪問看護を行い、点滴などにも対応している。通院の送迎等は、柔軟に対応している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。定期受診は、家族同行となっているが、不都合など時には職員が代行している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合についての対処は、職員間で統一されているが、終末期医療については、事業所での対応は今のところ行わない事としている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はさりげない言葉かけや対応に配慮している。個人保護法の勉強会は、職員研修の年間計画の中で、行う予定になっている。また、個人情報の管理は、施錠の出来るスタッフルームで管理されるなど配慮されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、バイタル後の化粧やネイル、フットケアをおこなうこと、10時のお茶の時間はきめてあるが、あくまでも強制ではなく、一人ひとりのペースにあわせたケアが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	散歩を兼ねて食材を商店街に買い出しに行ったり調理、盛り付け、後片付けなど、それぞれができることを行っている。また、利用者の食事の癖を把握し、早食いにならないよう一口大に切ったり、歯の悪い方には、刻み食にしたりと工夫している。利用者と職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるように配慮している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にあわせていつでも入浴できるが、入浴を好む人が少なく、利用者の嗜好品を準備したりして、入浴の声かけに工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花の水替え、玄関の掃除、箱作り等、それぞれの役割を持ち、季節の梅干し作り、つわむき、いもちづくり等を行い、また、習字やそろばんなど経験や知恵を発揮する場を作っている。日々のレクリエーションは、その場の雰囲気や決めたりするなど、マンネリ化しない工夫がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	2ヶ月に1回程度、喫茶店に行って好きな飲み物とお菓子をいただく機会がある他、併設施設のデイケアに遊びに行ったりしている。歩いて外出が困難な利用者には、定期的にドライブなどに出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全を考え内玄関に施錠している。施錠については、家族等に説明し同意を得ている。		職員が施錠しているから安心という意識に頼ってしまうケアではなく、どこにいても玄関の出入りがわかるように工夫すると共に、意識の転換がなされることを期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設と一体で避難誘導訓練、消火訓練を消防署の協力を得て、年2回実施している。また、毎月ホーム独自で避難誘導訓練を実施している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士による献立作りがなされている。食事や水分の摂取状況も毎日チェック表に記録し、個別に管理され、職員が情報を共有している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、大きなソファーがおいてあり、利用者が座ったり横になったりすることができ、また、壁には利用者が詠んだ句を利用者が習字で書いた作品などが飾られ、居心地の良い空間を作っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、家族に対して利用者の使い慣れた日用品や馴染みの物を持ってきて頂くように説明しているが、同じような簡易ベットと衣装ケースが置かれた部屋が、幾部屋かみづけられた。		入居前の見学時に家族に対して利用者は何故、馴染みの物が必要かなど、口頭での説明だけでなく、書面にして渡すなど工夫されることを期待したい。